

安全対策連絡協議会 開催報告

令和4年10月19日
在オマーン日本国大使館

1 開催日時

令和4年10月10日 16時半～17時半

2 開催場所

当館会議室

3 出席者

- (1) 日本人会等の在留邦人関係者
- (2) 山本大使ほか大使館館員

4 主な議題

(1) 山本大使挨拶

コロナが収束し、11月にはドーハでのワールドカップが開催される等、人の動きが活発化している。イエメン内戦の停戦合意が期限切れとなり情勢が変化している他、ウクライナ侵攻に関連したエネルギー危機や食料危機に直面する等、楽観できない状況にある。対面式の本協議会は令和元年12月以来となるが、今後、定期的を開催していきたい。

(2) 治安情勢・交通情勢・オマーンの交通事情

別添資料1参照。

(3) 要人來訪時の交通規制

スルタン・カブース通りの規制が主なもので、警備の軽重にもよるが、開始から1時間以内に規制が解除される可能性が高い。なお、交通規制は、要人來訪が新聞等で報道されている中、普段いないROP車両が道ばたで待機している場合、2時間以内に規制がされる可能性がある。

(4) オマーンにおける新型コロナウイルス感染状況

オマーン保健省は、コロナ感染者数発表について5月19日を最後に取りやめているが、引き続き、感染者数を把握しており、WHOホームページに掲載されている。現時点では、感染者の増もなく、死亡件数ゼロが続いている（別添資料2参照）。

(5) 日本における新型コロナウイルス感染症に係る水際対策の見直し

別添資料3参照。

(6) FIFAワールドカップカタール2022

ドーハのホテル確保が困難なため、ドバイ等の近隣国にホテルをとる観戦者もあり、オマーンにも来られると思われる。当地主要ホテルにワールドカップ

開催期間中の予約状況を聞いたところ、空いている日もあるとのことであるが、出張等を予定されている場合には、早めにホテルを確保されたほうが良い。

オマーン・ドーハ間のフライトは、カタール航空がシャトル便を用意している。空港では観戦者専用レーンを用意するとのことであるが、空港施設内、空港までの道路は混雑が予想されるので、出国の際は時間に余裕をもって準備されることを勧める。

(7) 緊急連絡網の再構築

自然災害等に際する邦人援護に資するため、現在、活用されていない緊急連絡網の再構築が必要と考えるので、今後、相談していきたい。

5 出席者からの情報・意見等

(1) (問) 過去にア首連で感染者数の高まりを受け、オマーンでも増加したケースがあったが、先般、ア首連で感染者数の増が報道された。オマーンは心配ないのか。

(答) オマーン保健省高官やWHOオマーン代表も述べているが、6月、7月にかけて、やや感染者数が増加したが、これは猛暑のため屋内に留まる機会が多かったためであり、8月に入り気候が良くなり、屋外に人が出るようになると、入院者数は10名以下、ICU占有率もゼロとなっているとして、心配すべき状況にないとのことである。

(2) (問) 子供が通う学校で、高熱、鼻水、喉痛の症状を訴える生徒が多くなってきている。コロナであるか不明であるが、薬局に処方箋をもって抗生剤を買いに行くも、在庫枯渇により、購入できなかった。

(答) 在ア首連日本国大使館の医務官が出張に来られるので、GCCにおける季節性インフルエンザ流行の有無、抗生剤在庫不足について照会のうえ、お知らせする。

(3) (問) 当地では季節性インフルエンザワクチン接種はできるのか。コロナ禍においてはできなかったと記憶する。

(答) インフルエンザワクチン接種の報道があったと記憶している。医療施設に確認のうえ、ご案内したい。

(4) (問) 9月27日の海外要人来訪時、子供が通う学校から教育省の指示として13時に一斉下校とする旨の連絡を同下校1時間前に受けた。夫婦ともに用事で外出する機会が多いので、非常に憂慮する。事前に情報を得られないのか。

(答) オマーンへの要人来訪が予定されている場合には、前日には報道がなされるので、注視していただきたい。これまでの経験から、概ね、午後に到着されるようなので、午後には交通規制が始まると見込んでいる。

6 上記5のフォローアップ

(1) 「高熱、鼻水、喉痛の症状を訴える生徒が多い。抗生剤が薬局にない。」
ア 医務官より以下のとおり確認しました。

コロナはヨーロッパの一部の国で再び増加傾向が認められているものの、GCC で増加しているとの情報には接していない。季節性インフルエンザが流行しはじめているとの情報も今のところはない。

他方、コロナも季節性インフルエンザも原因はウイルスのため、抗生剤（細菌感染に有効）を服用しても症状の改善は期待できない。ウイルス感染か細菌感染かの判断は、診察だけではなかなか難しいものの、もし医師が抗生剤を処方したとすれば、インフルエンザではなく、細菌感染を疑ったものと考えられる。オマーン国内の流通状況にもよるが、抗生剤は種類が多数あるため、もしどこでも入手できない抗生剤が処方された場合は、医師に相談の上、他の抗生剤を処方してもらうのも一つの対処法と考える。

イ 当館より、当地私立病院及び薬局に以下のとおり確認しました。

子供に限らず、大人も含め、多くの者が同様の症状を訴える者が多い。季節の変わり目なので体調を崩す者が多い。病院では希望がなければPCR検査を実施しない。抗生剤は、在庫が十分にある。

(2) 「当地でのインフルエンザワクチン接種の可否。」

当地主要私立病院に接種が可能である旨確認しましたので、接種要領について、別添資料4をご参照下さい。